

**平成 27 年度
流通魚介類の PCB、有機スズ等汚染実態調査(概要)**

PCB 等の化学物質については、流通魚介類の汚染状況を把握するため調査を実施している。

平成 27 年度の結果は以下のとおりである。

1 調査の概要

- (1) 平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月まで
- (2) 調査検体及び検体数
中央卸売市場に流通する魚介類の可食部のべ 666 検体
- (3) 調査対象物質
PCB、TBTO、TPT、ドリソ類(3 種類)及びクロルデン類 (5 種類)
- (4) 検査機関
東京都健康安全研究センター
一般財団法人 日本食品分析センター

2 調査結果

表 1 平成 27 年度流通魚介類の実態調査結果 (単位: ppm)

物質名		検体数	検出数	検出率 (%)	最大検出値	平均*
PCB		146	118	80.8	0.191	0.011
TBTO		120	37	30.8	0.015	0.001
TPT		120	76	63.3	0.032	0.005
ドリソ類	アルドソ	35	0	0.0	—	—
	デルトソ	35	2	5.7	0.001	0.000
	エソ	35	0	0.0	—	—
クロルデン類	trans-クロルデン	35	9	25.7	0.004	0.001
	cis-クロルデン	35	21	60.0	0.006	0.001
	オキシクロルデン	35	0	0.0	—	—
	trans-ナクロ	35	20	57.1	0.009	0.002
	cis-ナクロ	35	8	22.9	0.002	0.000

※不検出 (ND) を 0 として算出した。

3 まとめ

- (1) PCB は 146 検体中 118 検体 (80.8%)、TBT0 は 120 検体中 37 検体 (30.8%)、TPT は 120 検体中 76 検体 (63.3%) から検出された。
- (2) ドリン類 (3 種類) のうち、ディルドリンが 35 検体中 2 検体 (5.7%) から検出された。アルドリン及びエンドリンは検出されなかった。また、クロルデン類 (5 種類) のうち、trans-クロルデンが 35 検体中 9 検体 (25.7%)、cis-クロルデンが 35 検体中 21 検体 (60.0%)、trans-ノナクロルが 35 検体中 20 検体 (57.1%)、cis-ノナクロルが 35 検体中 8 検体 (22.9%) から検出された。オキシクロルデンは検出されなかった。
- (3) PCB、TBT0、TPT、ドリン類及びクロルデン類の検出値は、いずれも食品衛生法の基準値等を下回っており、食品安全上問題となるものではなかった。